

広島湾再生プロジェクトホームページ のリニューアル

平成21年3月18日
広島湾再生推進会議



ホームページのコンセプト

各施策の取り組み内容や進捗状況に関する情報を、一般の方が見てわかるようにする。

画面上のマップをクリックすることで、各施策の説明が表示されるようにする。(詳しい情報については、各機関のHPへのリンク貼付で対応)

一般の方にも興味を持ってもらえる内容とする。

一般の方が楽しめるコンテンツや、参加できるコンテンツを検討する。

行政、市民・NPO等とのコミュニケーションの場としても活用出来る内容とする。

NPOの取り組み紹介など

ホームページの維持管理は、極力簡単に出来るようにする。

各機関が実施する施策に関する情報は、様式(フォーマット)を作成し、各機関において作成したものを掲載する。

維持管理を簡単にすることで、ホームページの更新頻度を高くする。



- ・わかりやすく親しみやすいホームページにすることで、広島湾再生プロジェクトの取り組み内容を広く一般にPRするとともに、行政、市民・NPO等とのコミュニケーションの場としての活用も期待

トップページ



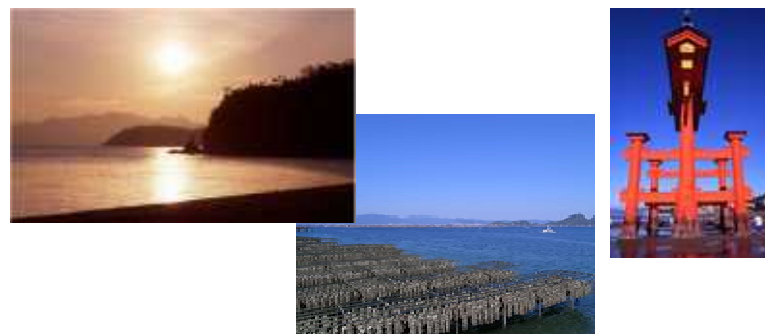
トップページは、シンプルで字が少ないデザインを採用
利用者が見たい情報にすぐアクセスできるように、4つのボタン(カテゴリ)に集約
一般の方が興味を持ちやすいコンテンツは「オススメコンテンツ」としてトップページに表示



「楽しむ・参加する」のコンテンツ例

「広島湾の眺望点の写真」の募集・選定

平成21年度は、広島湾再生プロジェクトホームページ上で、一般の方から「広島湾の眺望点の写真」の募集・選定を行い、ホームページで公開していく予定です。



広島湾の魅力的な自然景観などを再発見し、PRしていくことで、地域との連携による保全やこれらの資源の活用につなげていきます。

「楽しむ・参加する」のページでは、このほか広島湾の観光情報、イベント情報の提供や、平成19年度に製作した「広島湾マップ」のダウンロードなど、一般の方が楽しめるコンテンツを掲載。



「広島湾について学ぶ」のコンテンツ例

コラムやクイズの連載、広島湾について学べる場所の紹介

コラム“広島湾の民輪”

HIROSHIMA WAN NO MINWA
コラム 広島湾の民輪

Vol.1
太田川を見つめて
広島環境サポーターネットワークの調査でわかったこと。

広島環境サポーターネットワーク
河川部会 佐々木文



私たち環境サポーターネットワーク河川、海洋部会では、1998年から毎年太田川放流調査に放流の水質、生物、底質などの調査を行っており、四季折々に変化する太田川の状況に驚いています。

最近、広島県民のプロジェクトや研究家あるいは環境団体による色々なデータに基づく調査結果が数多く目に届くようになり、再調査が可能であることを感じ、私たちがモニタリング調査を継続しております。

さて、我々の調査の目的は、現状における川の状況を知り、色々と出てくるデータと資料により書き出される結果を考え実行することであるが、例えばヘドロの浄化について実行するに先立ち多くの壁に行動が阻まれるのである。

その一つが経済的な問題であり、ヘドロ浄化にかかる費用は大きなものがある。2008年に行った海田湾での半年間を使った浄化は費用をかけたけど行ったが、分析費用その他で3万円は費やしたと驚く。

また、現在ではゼオライトを使用した浄化再生素材も、石灰灰を利用した浄化方法など数多く試行されているが、中でもM-1層を使った浄化は地域によりその効果はまちまちであり、市や県では、現状でM-1層の試行には賛成ではない様である。

あらゆる方法を試みることは大切であるが、その方法が良いか悪いかは小規模な実験を行って(例えば室内実験等)判断し、その上でフィールドに展開していくことが重要である。その為にもモニタリング調査は大切であり、この調査は継続していくつもりである。

少し標準にそれだが、今年在広島湾のデルタを流れる川の状況は西高潮位の状態である。

即ち、東に行くほど川は汚れているのである。その最たる原因は広島駅前を流れる、横断川である。干潮時に見られるヘドロの平海は細々と続き、河口に近くなるまですべてヘドロ化しているのが現状である。何故この様な状態に陥ったか、これは川の一次改修で行われた放水路の施工に伴う水門の設置による水質悪化にあるかと考えられる。

無論のこと、放水路の施工は洪水調整を目的とし市内に展開する海抜0m地域の洪水対策である。しかしながら放水路と干潮の横断川に振り分けられた水量は、横断川の地理的条件から減少し、川の水は停滞するのである。この事によりヘドロが増殖し、足を一歩踏み入れると撤去が不可能なまでのヘドロ層が蓄積している。

HIROSHIMA WAN NO MINWA

発見！知れば知るほど！広島湾通

発見！ 知れば知るほど！ **広島湾通** ひろしまわんつう

Vol.1

Q 昔、白島は本当に島だった!?



写真は現在の白島電停付近

A 白島は本当に島でした！しかも旧名は「箱島」でした！

過去、広島市中心部南側、大正橋の南側に位置し、新大正橋が完成前に築かれた「白島」は、広島が五大繁栄地と呼ばれていた広島県南側の、現在の広島市中心部北側は広島湾の中であり、白島を挟み南側を河口湾や東広島、北広島と北に繋がっていた。

白島が、島から陸地の形へと変化するきっかけとなったのは、先列史跡の「毛利陣代」による、1599年・五箇年(現在の広島)を中心とした干拓と、広島城の築城を命じられたことでした。その後は、少しづつ干拓が進み、現在の形へと変遷を遂げました。

赤坂ですが、干拓前は白島(白くま)は箱島(はこしま)、江波(はな)は白島山(白島山)及び白島山(白島山)は白島山(はこしま)と呼ばれていた。

NPOや学識経験者などによるコラムの連載や広島湾に関するクイズ、広島湾について学べる場所の紹介など、一般の方が広島湾について楽しく学べるようなコンテンツを掲載。



「取り組みの紹介」のコンテンツ例

NPOとの連携により、広島湾再生プロジェクトホームページを活用した活動紹介などの実施

NPOとの意見交換会の開催（3回）



ホームページに掲載する、NPOの活動内容などについて、NPOとの意見交換会を開催

ホームページに、NPOの活動（広報誌や調査研究活動成果など）などを掲載するコンテンツを作成。



平成21年度以降は、ホームページによるNPOの活動紹介などを継続していくほか、川と海の連携による環境学習内容についてとりまとめたマニュアル等を作成し、順次公開していく予定です。



「広島湾再生プロジェクトとは」の コンテンツ例

各機関が実施している施策をマップ上でわかりやすく表示

広島湾とは | 広島湾の現状と課題 | 広島湾再生プロジェクトについて | 広島湾再生に向けた取り組み状況 | トップページ

広島湾再生に向けた取り組み状況

1 森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生するための取り組み

2 汚水処理対策

行動計画では、陸域からの栄養塩類や有機物の供給を抑制するために、以下のとおり汚水処理対策を推進することとしています。

汚水処理人口普及率 計画期間内に約7%向上	合流式下水道の改善 計画期間内に8地区改善	下水道高度処理人口普及率 約13%向上
--------------------------	--------------------------	------------------------

<凡例>

- 流域の範囲
- 海域の範囲
- 広島湾再生プロジェクトの対象範囲
- 事業箇所

※事業箇所をクリックすると詳しい情報をご覧いただけます。

安芸太田町加計浄化センター

合流式下水道の改善(千田地区、江波地区)

太田川流域下水道東部浄化センター

尾津処理区(高度処理)の整備

鹿野処理区(高度処理)の整備

各機関が実施している取り組みをマップ上でわかりやすく表示

マップをクリックすると施策の説明が表示される

安芸太田町加計浄化センターの供用

平成13年に事業認可を受け、平成14年より陸域内汚水処理施設を整備し、計画区域(約40ヘクタール)を平成18年4月に一部供用開始しました。平成19年供用整備工場の完成、事業所の供用・管理が予定されています。

▶ 実施機関のリンク
広島県庁 <http://amago.kodai.mhl.go.jp/>
(管理担当) <http://www.kodai.jp/>

▶ 詳細資料PDFファイルのダウンロード
安芸太田町加計浄化センターの供用
(01188)

今後の展開予定

<今年度>

ホームページ(リニューアル)の公開

…平成20年3月より公開中。

コラム「広島湾の民輪」、NPOや市民団体の取り組み紹介ページなどは、今年度中に順次掲載を開始予定。

<平成21年度以降>

年度当初に、イベント等の年間スケジュールを掲載。

イベント等の情報は、広島湾再生プロジェクトホームページでも積極的に情報発信を行う。

各機関やNPOなどが実施するイベントのうち、可能なものについてはホームページで写真等により開催結果を報告

各機関が実施している取り組み(個票)は、年1回更新予定